

ぐんま

部活動地域展開

チェックリスト



「何から始めればいいのか」
「どこまで進んでいるのか」
「今後、取り組むことは何か」
進捗状況をチェック！

市町村向け スポーツ版

- 現状把握や課題確認を目的としたチェックリストです
- 「全ての項目にチェックが入れなければならない」「前のステージが終わらないと次に進めない」というものではありません
- 各自治体の実情に応じて、必要な箇所から取り組んでください
- 不明な点等は、下記担当課までご相談ください

教育委員会健康体育課
地域創生部スポーツ振興課

【各ステージ】

- | | |
|--------|----------------------|
| ○ホップ編 | ステージ0：学校部活動の現状と課題 |
| | ステージ1：協議会の設置と推進計画の策定 |
| ○ステップ編 | ステージ2：地域展開に向けて |
| ○ジャンプ編 | ステージ3：持続可能な体制の構築 |
| | ステージ4：平日も含めた地域展開へ |

群馬県教育委員会
群馬県地域創生部
令和7年5月

部活動地域展開 チェックリスト

ステージ0：学校部活動の現状と課題

0-1 学校部活動の現状把握

- ☐ 生徒数の推移（5年前から10年後くらいまで）
- ☐ 部活動設置数（一覧表にすると、合同部活動や拠点校部活動などの可能性がを見つけやすくなります）
- ☐ 合同部活動数・拠点校部活動数
- ☐ 入部率

0-2 学校部活動の課題把握

- ☐ 生徒の希望する部活動の把握
- ☐ 指導者（顧問・部活動指導員・外部指導者）の確保
- ☐ 適正な活動時間と場の確保

ステージ1：協議会の設置と推進計画の策定

1-1 協議会の設置と推進計画の策定

- ☐ 実務担当課の決定
- ☐ 関係他部署との連携体制の構築（実務者会議の設置）
- ☐ 協議会の設置（委員の例：学識経験者、保護者代表、スポーツ関係団体、文化関係団体、校長など）
- ☐ 実態調査・アンケート調査（生徒・保護者・教員）の実施と分析
- ☐ 推進計画・推進目標の策定
- ☐ 生徒・保護者・地域住民への情報提供方法の確立

1-2 学校部活動の改善

- ☐ 国・群馬県ガイドラインの遵守
- ☐ 地域の実情に応じたガイドラインの策定
- ☐ ゆる部活・シーズン制・マルチスポーツの導入検討
- ☐ 生徒の主体的活動の推進
- ☐ 合同部活動の実施
- ☐ 拠点校部活動の実施
- ☐ 顧問・部活動指導員・外部指導者の確保
- ☐ 適正な活動時間の設定
- ☐ 活動場所の確保
- ☐ 移動手段の確保

部活動地域展開 チェックリスト

ステップ編

ステージ2：地域展開に向けて

2-1 休日の地域クラブ活動への移行

- ☐ 総括コーディネーターの任用
- ☐ 各種団体の実態調査（スポーツ少年団・スポーツクラブなど）
- ☐ 地域展開後の運営組織の検討（市町村直轄・公的機関・民間組織）
- ☐ スポーツ協会等との連携
- ☐ 受け皿の決定（行政機関・スポーツ協会・競技団体・スポーツ少年団・保護者会・総合型スポーツクラブ・民間企業等）
- ☐ できる部活からの実証研究（成果と課題を整理し、よりよい運営方法を検討する）
- ☐ 新規地域クラブの設立支援（アシスタントクラブマネージャー養成講習会紹介等）
- ☐ リスクマネジメント（傷害保険・賠償責任保険）対応
- ☐ 公認（公的支援）クラブの要件（公益性・法人格等）
- ☐ 日本スポーツ協会作成「総合型クラブ創設ガイド」を活用



2-2 財源の確保

- ☐ 持続可能な予算計画策定
- ☐ 必要な予算の確保
- ☐ 国・県補助金・各種助成金の活用
- ☐ 適切な会費の検討
- ☐ 受益者負担への理解促進
- ☐ 経済的な困窮家庭への支援策
- ☐ 企業協賛金、ふるさと納税等の検討

2-3 指導者の確保と質の向上

- ☐ 指導者バンクの設立または県指導者バンク等の活用
- ☐ 指導者資格の取得
- ☐ 指導手当の検討
- ☐ サポートスタッフの確保（保護者等地域人材の活用）
- ☐ 教職員の兼職兼業の可否や条件等
- ☐ 指導者研修の実施と認定制度導入

2-4 効果的な広報

- ☐ 市町村ホームページ等の活用
- ☐ チラシの配布・回覧等の広報
- ☐ 教職員や保護者、生徒向け説明会の実施
- ☐ シンポジウム・セミナー等の開催
- ☐ テレビ・ラジオ・新聞等、地域メディアとの連携
- ☐ 日本スポーツ協会作成「総合型広報ガイド」を活用



2-5 学校施設 管理体制の整備

- ☐ 学校施設・公共施設活用ルールの設定
- ☐ 放課後活動、社会体育活動の時間帯調整
- ☐ ICTの活用（スマートロック、防犯カメラ）
- ☐ 用具借用ルールの設定
- ☐ 指定管理者制度、業務管理委託制度の活用

部活動地域展開 チェックリスト

ジャンプ編

ステージ3：持続可能な体制の構築

- ☐ 地域クラブとしての危機管理マニュアルの作成
- ☐ 生徒のやりたいスポーツ運営体制への移行
- ☐ 引退のない部活動の実施
- ☐ ジュニアからシニアまでの多世代での取り組みの試行
- ☐ 大学・高校・企業・プロスポーツチーム・各種団体（JA・JCI・郵便局・地域交通機関等）との連携
- ☐ 学校・公共施設以外の施設（大学・企業・フィットネスクラブ・スイミングスクール）の活用
- ☐ 地域スポーツクラブとの連携（支援アプリ等を利用した連絡方法の検討）
- ☐ 広報活動（ノウハウ・掲示場所）への協力体制
- ☐ 近隣自治体との広域連携
- ☐ 大会の変更（リーグ戦・レベル別大会等）

ステージ4：平日も含めた地域展開へ

- ☐ 民間資金の活用（企業版ふるさと納税）
- ☐ スポンサーシップの活用
- ☐ 自治体主導のクラウドファンディングの活用
- ☐ 地域クラブ運営の効率化促進（支援アプリ等の導入）
- ☐ 公認クラブマネジャー及びアシスタントクラブマネジャー資格取得の促進
- ☐ 公認スポーツ指導者資格取得の促進



学校部活動の地域連携及びクラブ活動への移行に向けた推進計画 （令和5年7月）



概要版



学校部活動の地域連携及びクラブ活動への移行に向けた推進計画（抜）

【推進計画策定の目的】

- ◎少子化の中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保する。
- ◎「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる」という意識の下、地域におけるスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、子供たちの持続可能で多様な機会を確保するとともに、多世代交流によって地域コミュニティの充実を図る。
- ◎学校の働き方改革を推進し、学校教育の質を向上させる。

【取組の基本方針】

（1）地域クラブ活動の在り方

生徒のみならず地域住民が生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保し、多様な世代とのコミュニケーションを通して、従前の学校部活動の意義をさらに発展させ、生徒の心身の健全育成等を図ることのできるより良い地域スポーツ・文化芸術環境を目指す。

（2）地域クラブ活動の環境整備

生徒のみならず地域住民を対象とした地域スポーツ・文化芸術活動全体を振興する契機とする。